

発行所 愛知県山岳連盟  
 発行人 安藤 武典  
 編集人 中平等 新一  
 名古屋市天白区中平3-1902  
 TEL&FAX 052-802-8062

◇ 4月19日(土) 平成26年度愛知県山岳連盟定時総会 <http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>



第42回愛知岳連親睦スキー大会出場のみなさん

## 第42回愛知岳連親睦スキー・雪山ハイイク 団体優勝は高体連Aチーム ～雪山ハイイクや懇親会も楽しむ～

42回目を数える毎年恒例の親睦スキー大会は、今年度は2日間にわたり、一日目に雪山ハイイク、二日目に競技という形に発展して、2月15日16日に43名が参加して実施された。

2月15日、前日は東海地方から関東地方にかけて大雪に見舞われたが、現地はそれほどでもなく、しかし、雪山ハイイクの会場となる旧イトシロシャローットスキー場は新雪がきれいに降り積もるといってもいい状況で大会当日を迎えることができた。

11時に開会式を行い、宿舎である民宿「幸二」さんの前には大きなまくらが作られ、その前で写真を撮影して参加者は元気に雪山ハイイクに出かけた。また、当日夜から合流する参加者も集まり、めいめい山スキーなどへ出かけた。

雪山ハイイクは16時前に宿舎へ戻り、宿舎の部屋にて語らううちに、18時となって夕食の時間となり、19時から約30分間、「星降る里のキャンドル祭り」に参加して幻想的な

雪道を散策することもできた。そして、19時30分からは宿舎の食堂で懇親会を行い、銘酒やつまみをお供に夜遅くまで楽しい語らいの時間を過ごすことができた。

翌朝10時00分、ウイニングヒルズ白鳥スキー場に会場を移してスキー競技会が始まった。9時30分スタートの予定であったが、前夜の降雪のため競技コースにはきれいに新雪が降り積もり、まず競技参加者によるコース整備から始まったが、天候自体はすばらしい晴天に恵まれ、楽しく競技を行うことができた。

競技終了後、スキー場のホテルの食堂にて、恒例となったカレーライスバイキングの昼食を取り、13時から閉会式となった。

今回から、宿泊を伴う行事となったため、主催者も想定していなかった事態がいくつかが発生し、参加者の皆様方に多大なご迷惑をおかけした場面もあったが、来年度はそれを生かして、「本当に楽しい」と



感じてもらえる大会にしたいと考えているので、来年度はさらなる会員の方々の参加をお願いしたい。

また、本行事の実施に当たって様々なご協力を頂いた民泊「幸二」さん、ウイングヒルズ白鳥スキー場、現地観光協会役員で、例年お世話になっている民泊「ささき」さんなど現地の方々や、景品を頂いた左記の協賛店の皆様方に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

(関谷雅樹)

知原高体連登山専門部  
※会員の皆様方におかれましては、上記協賛店のお引き立ての程をよろしくお願ひします。

なお成績は次のとおり。

- ◆団体の部
- 優勝 愛知県高体連 A  
2位 岡崎山岳会 A  
3位 大山山岳会 A  
4位 気分はソチ  
5位 安城こもれび A  
6位 やまびこ山想会  
7位 犬山山岳会 B  
8位 犬山山岳会 C  
9位 ジャイアントステップ  
10位 安城こもれび B
- ◆個人の部
- 優勝 関谷 雅樹(高体連 A)  
2位 鈴木 重光(岡崎 A)  
3位 吉田 孝夫(高体連 A)  
4位 中野 明(アルパイン)  
5位 中森真紀枝(天山 A)

## 大会に参加して

### 初体験の雪上ハイイク

安城こもれび会

加藤 由紀子

イトシロスキー場跡へ到着後、岳連の高木指導員の下、18人で雪上ハイイクに出発、初体験の私は真白な雪の上に動物になった気分です。自由に歩けるスノーシューにワイヤー、

がルンルンもつかの間30cm位の雪上に大腿が上がらない、スズルと後続へ、ストックのピリピリ感?を身体に充電してもらっていると思ひこみ前進、やつとりフトの終着点跡地で昼食。雪山での心得のビバーク・シエルトターの講習会が始まる。

5個のザックとツエルトを利用してみるみる雪の小山が出来、小山の下から中を掘っていくのが大変、交代しながら掘って10分で5人位が入れるシエルトターが完成。(軽量スコップは必需品)

その夜はシヤブシヤブの夕食に岩魚の骨酒で、皆ほろ酔い気分の後キャンドル・フェスタ会場へ、初めての蠟燭明かりの夜道、甘酒を求めて汗の出るほど歩き、トトロの雪像があるメイン会場は幻想的、ほのぼのと心の中に火がともる。そして山岳会の懇親会場は大盛況：仲間っていいなあ！

翌日7時40分、快晴のなかウイングヒルズ・スキー場へ、なんとロビーは銀座の人混み、ファミリーありカッパルから幼児から色とりどりのウェアが花畑のよう。

20年ぶりのスキーに嬉しいがハラハラドキドキリフト

の頂上からはすばらしい眺め、コレダヨネーと胸いっぱい息をして滑り出すが膝に力が入らず、へつぱり寝てヨレヨレ。バッテリーが返ったつもりで一つ一つ思い出しながら滑る。「こもれび会」より6人がスラロームに挑戦、スタートは急直下、応援しているだけで

## 大会雑感

副会長 中平等新一

恒例の親睦スキー大会が、去る2月14・15日の両日行われた。

今回で42回目を迎えた大会であったが、最近のスキー人口の減少と共に大会参加者も減り、開催も危ぶまれている中で、今年から雪山ハイイクを大会の中に取り入れたこともあって、参加者は総勢43人が集った。

14日は、午後から雪山ハイイクを旧イトシロシャロットスキー場で実施し、スノーシューやワカンなどで前日降った新雪を踏みしめ、途中でイーグルの構築を学んだりして下山し、約4時間の行程で終えたが、初めての試みにも参加者らには満足した感があつた。

もハラハラ！お昼はホテルでカレーライスの食べ放題で表彰式、なんと今日の大賞の2個を「こもれび会」がGET、良かった良かった！

散会後、残り1時間ほどリフトに乗りスキーに行き、良く歩き、良くすべり、良く転んだ2日間でした。

また、夕食会では賑やかに旧知の交流を懐かしんだり、新顔たちが話が弾んだ。

翌15日は、10時からスキー大会がウイングヒルズ白鳥スキー場で行われ、男女31人が回転競技に出場した。競技は2回の合計で競われたが途中で何回も転倒する人や、コースを外れる人などあつたりで、初心者も充分楽しみ気あいの大会であった。

表彰式では、順位に関係なく全員に賞品が渡され、その都度歓声があがって盛りあがった。そして、今回も多くの協賛店から賞品を頂いた。

スキー大会は、岳連行事の中では唯一親睦を目的とした行事であり、今後も多くの人から経験を問わず、どなたでも競技に参加し、岳連の活性化に寄与してほしい。

天気予報をするために必要な知識

◆天気は西から東へ移る

昔から「朝焼けは晴」「夕焼けの翌日は晴」という諺があります。朝焼けは、晴れている区域がすでに東の方に去ってしまつたときに起こる現象ですから、天気は下り坂ということを示したものです。夕焼けは上空に雲はあつても、西の方では暗れていることを示したもので、その晴天の区域が東の方に移ってくるためにこのような諺が出来ました。

地上付近から2000mくらいの高さの間では、低気圧や高気圧による下層のいろいろな方向の風が吹いています。それが、それ以上の上空では地球の自転の影響を受けて西よりの風が吹いています。この風の流れを偏西風といいます。その中で一番風の強いところをジェット気流と呼びます。夏季の日本付近は中緯度高気圧帯(太平洋高気圧)におおわれるようになり、強風帯は日本の北の方に移動します。偏西風はきわめて弱くなりますが、その他の季節は常に偏西風が吹いています。日本付近を通る高気圧や低気圧は、おおざっぱに言って、この偏西風に流されて西から東に移動すると考えることができます。したがって、高気圧や低

気圧の中で起こるいろいろな天気現象も西から東へ動くと考えてよいでしょう。春や秋に移動性高気圧と低気圧とが交互に通るようなときは、比較的規則正しく天気が変化することがあります。

しかし、北高型やオホーツク海高気圧が北の方から張り出すような北東気流の場合、西の方の天気とは関係なく、南の方や東の方から天気が変わる場合もあります。また、南海上から北上してくる熱帯低気圧や台風などの場合も同じように南の方や東の方から天気が変化することもあります。

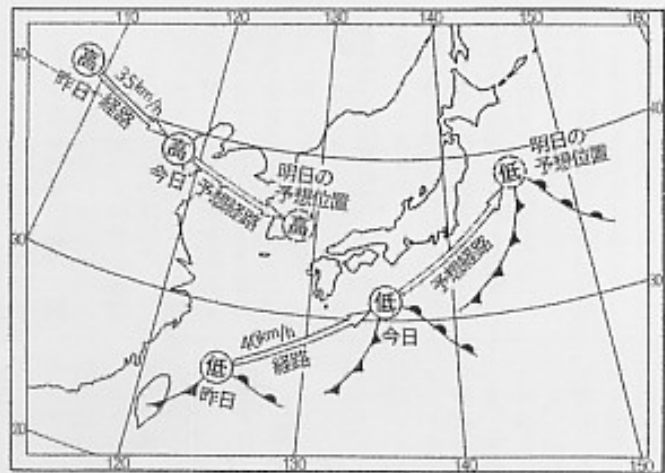
なお、冬季現れる冬型の気圧配置の場合は、天気の変化が移動することはありません。◆高気圧・低気圧の移動

日本の上空では、おおまかにいって西よりの風が吹いています。したがって、上空の気圧の谷が近づいたり、東に遠ざかったりしますと、その谷や屋根にそって南西の風や北西の風が吹くようになります。したがって高気圧や低気圧もその風に流されて南東に進んだり北東に進んだりします。高気圧や低気圧の進行方向や速度は、今後24時間ぐらゐは、今まで進んできた方向とその速度で

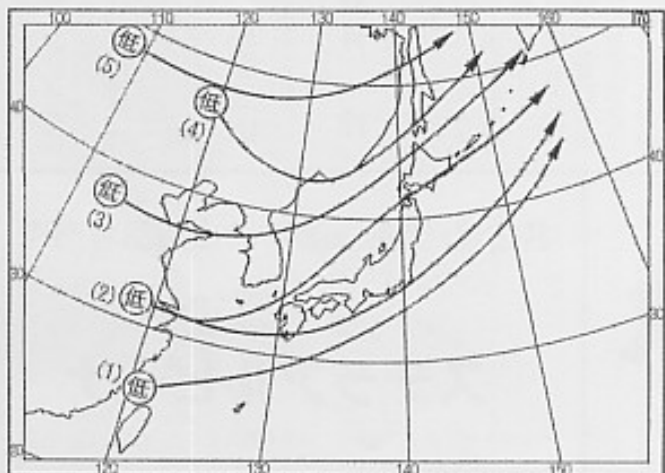
さらに進むものと考えても大きな誤りはないようです。今日描き上げた天気図に昨日の位置を書き加えてみます。そして今後も同じ方向と速度で進むと仮定すれば、明日の同じ時間にはどの辺に進むかが予想できます。1図にはモデル的な高気圧と低気圧を示しましたが、昨日から今日までの距離をその進行方向上に延長して明日の予想位置を割り出します。明日は低気圧が三陸沖に移動し西日本から高気圧におおわれることがわ

かります。◆低気圧の経路  
2図は、日本付近にやってくる低気圧の主な経路です。東シナ海で発生する低気圧(1)は、日本の南海上を東北東に進みます。春先に太平洋側の地方に大雪を降らす東シナ海低気圧はこのコースです。長江方面から進んでくる低気圧(2)は、南海上を進むものと、日本海に入って急発達するもの、ときには二つ玉低気圧となつて進むものがあります。華北方面から進んでくる低気

圧(3)は、黄海から朝鮮半島を横切つて日本海で発達しながら北東に進むことが多いものです。中国東北区に現れる低気圧(4)は一旦南下しますが、沿海州に沿つたり、日本海北部を北東進するものもあります。また、バイカル湖方面からやってくる低気圧(5)は、ほぼ東進することが多く、北日本の天気をくずしますが、東日本や西日本などの天気を大きく左右することはあまりありません。



1図 高・低気圧の移動と今後の予想



2図 主な低気圧の経路